

海産系人工アユの放流効果調査

福島県内水面水産試験場 調査部
平成17年事業報告

1 部門名 水産業-内水面(増養殖)-内水面漁業

分類コード 19-08-22650000

2 担当者 池川 正人

3 要旨

県内では主に琵琶湖産系種苗を放流してきたが、冷水病による斃死等により解禁前に大量に流下することがあった。このため内水面の各漁業協同組合から罹病しにくい海産系人工種苗の導入が求められていた。

これを受け平成11、12年度に海産系、琵琶湖産系種苗を同量ずつ河川に放流し比較試験を行ったところ、生長は海産系が琵琶湖系を上回り、釣獲状況は同等ないし海産系が下回ることが伺えた。更に海産系種苗を対象に、平成13～17年度まで放流試験を実施し、解禁直前までの種苗の生長、生残率及び解禁直後の釣獲状況について特性評価を行った。

この結果、一定の生長が見込め、大規模な冷水病の発生もなく、解禁時までの生残率は少なくとも30%以上であることが分かり、海産系種苗を放流した場合、解禁までに大量の流下が起こる可能性は低いものと考えられた。

また、海産系種苗の解禁直後の釣獲状況について、琵琶湖産系などと比較したところ、極端に釣れたという事例が少ないものの全体に顕著な差はないと考えられた

4 その他の資料など

なし